

市民との協働指針の概要に対応する意見		
協働の主体と役割に関する意見		
大項目	意見集約	委員会からの意見等
協働の主体と役割		・協働する場合に、その範囲なり、参加していただく人、そういうものをどのように捉えていくかということを議論し、協働を進めて貰えばよい。(第2回)
	市民(個人) ・公益的な活動への自主的な参加	・一斉清掃など自らができる公益的な活動へ参加する。(事例:一斉清掃)
	・地域社会に関心を持ち情報を収集する	・行政ではいろいろな事をやっているが、肝心要の自分達のこととして捉えきれていない部分が沢山ありそうな気がする。(第3回) ・市民として花巻市を構成する個人や団体の方々がそれぞれに関心を持てる機会やチャンスをいかに作って行くかも協働を進める上で非常に重要。(第4回)
	市民活動団体 ・知識や情報をまちづくりに活用	・婦人団体は、消防クラブを組織し、自主防災の勉強会や訓練をおこなっているので有事の際にも活動できる。(第3回)
	地域団体 ・地域課題の解決	・地域の課題についてどう取り組むか話し合う機会をもっと作り、地域の特性としてできること、できないことを共に考えながら進めなければならない(第3回) ・自主防災組織については、コミュニティの役割が隣近所で支えるということからすれば、最もいい事例であり、市民が知恵を出し合って進める必要がある。(第3回) ・地域防災について、市民が自分たちのこととして捉えきれていない部分が多くあることから、地域で現状を話し合う機会をもっとつくっていかなければならない。(第3回) ・地域のことは地域で解決しなければならないというような気持ちをもったり、話し合ったりする必要がある。(第4回)
	・組織の強化	・主力で地域のリーダーとして活動できる方が少なくなっているということが問題である。(第2回) ・班長なりグループのリーダーに強力なリーダーシップが必要。(第4回) ・一人に集中させず、組織として可能なことを探りながら、地域のリーダーを育てる必要がある。(第4回) ・地域のリーダーを中心に結的なものを地道に推し進める必要がある(第4回)

協働の主体と役割	<p>事業者(企業、学校など)</p> <p>・地域社会の一員としてまちづくりへ積極的に寄与</p>	<p>・企業自らの特性を生かしたサービスを提供する(事例:湯のまちホット交流サービス事業)</p>
	<p>・学生の社会貢献活動の奨励</p>	<p>・中学生による除雪ボランティアは、独居老人などの高齢者世帯に実施することで、多少は子どもたちの意識の中に自分で手を貸してあげようということに繋がる。(第3回)</p> <p>・高校生は受験などもあり忙しいが、小学校や中学校では思いやりの心や奉仕の心などを授業や学習の場などいろいろな場面を通して教えることが重要である。(第4回)</p> <p>・子どもたちが地域での活動に取り組むことで、地域のことを意識したり、自分たちも役に立つと思いを育てるよう、協働を進める時に大人だけのものとせず、子どもたちも含め市民として自分たちのできることを出し合おう、役に立たせようという協働の仕方を求めていくことが必要(第4回)</p>
	<p>行政</p> <p>・協働事業の制度設計</p>	<p>・橋守事業や湯のまちホット交流サービス事業など事業の制度づくり(第2回事例)</p>
	<p>・協働の環境作りや協働意識の醸成</p>	<p>・コミュニティ会議などでも、予算の獲得や要望だけが強い時期もあり、協働の考え方を明確にしておいたほうが良い。(第2回)</p> <p>・個人では難しいことも、組織をつくることで効率的な活動が可能となることから「自主」防災組織ではあるが、ある程度強制的に市で組織化を主導するべきである。(第3回)</p> <p>・地域差がいろいろあるので、それを解消するためには、市で統一した見解を示し、指導を強くした方がいい(第3回)</p>
	<p>・職員の社会貢献活動への参加</p>	<p>・市の職員は24時間市の職員という感覚ではなく、帰宅後は地域の一住民としてそれなりの活動をするべき。そうすることで市の職員としての経験を踏まえた地域活動ができる。(第4回)</p>
	<p>・情報の提供・共有</p>	<p>・コミュニティFMを使って災害情報などを流すことを市民は知らないので周知するべきではないか(第3回)</p> <p>・行政でも他の地域の例など具体的な訓練等の情報を提供するなどもっと関わることが必要(第3回)</p> <p>・行政から今よりもう少し密度の高い情報を提供することが必要(第4回)</p>